

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

内部質保証推進委員会

(責任者名) 塩澤 寛樹

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<b>学内からの視点</b>	
プログラムの履修・修得状況	各学部の必修科目であるため、原則として全ての学生が履修する必要がある。文学部「情報処理1」は入学者181名全員が修得、国際コミュニケーション学部「情報・データ処理基礎」は入学者68名のうち66名が修得しており、プログラムの修得状況は順調であると考えられる。今後もプログラムの履修・修得100%を目指し、オリエンテーション等での周知の徹底・履修指導などを行っていく。
学修成果	授業評価アンケートにて受講の満足度や分野への学習意欲・授業に関する意見などについて調査・集計し、今後の授業運営に役立てていく。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価アンケートにて授業への理解度や授業が学生の興味・関心の向上に繋がったかを調査・集計し、今後の授業運営に役立てていく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	対象科目はいずれも必修科目であるため、後輩等他の学生への推奨という項目のアンケートは実施していないが、授業評価アンケートにおいて、「授業において工夫して欲しいこと」を学生がコメントできる欄を設けており、翌年度以降の授業の参考にしている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	各学部の必修科目であるため、履修率は100%を維持している。今後もプログラムの修得率が100%となることを目指し、オリエンテーション等での周知や履修指導を実施していく。
<b>学外からの視点</b>	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	学内で保有している卒業生の情報や、卒業生の意見を聴く機会を活用して修了者の状況・意見を把握するとともに、学内で実施しているセミナーや合同説明会などにおいて企業の採用担当者へのヒアリング等を実施することにより、企業での活躍状況・評価を把握することを目指す。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	卒業生の意見を聴く機会や学内で実施しているセミナー、合同説明会などにおいて、企業の採用担当者へのヒアリング等を実施することにより、産業界が求める知識や技能について把握することを目指す。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>主に文系の学生が対象となるため、学生が専攻する分野でのデータサイエンスの活用を紹介するなどして、個々の学生の問題関心に惹きつけた授業を展開することを心がけている。また、総務省や地方自治体などが提供する公的データを取得して実習を行うことで、身近な問題とデータサイエンスやAIとの関わりについての理解を深めることも進めている。さらに、Pythonを用いたプログラミングの実習を通じて、単に情報を利用するだけでなく、より能動的に情報を処理して発信するための基礎を学べるような工夫を行っている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学期末に実施している授業評価アンケートにて学生の理解度を把握し、授業の満足度や理解度などを改善するべく検討を重ねている。また、授業時には学生が実習内容をLMSを通じて提出し、それに対して適宜フィードバックを与えることで、学生にとって段階を踏んで授業内容を理解するような体制を確保している。</p>